

倶多楽の火山活動解説資料（令和元年6月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①、図3）

25日に実施した現地調査では、笠山周辺で地中温度が高い状態が続いており、植生が枯れている領域が拡大していることを確認しました。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS連続観測では、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和元年7月分）は令和元年8月8日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（6月9日、414m山監視カメラによる）

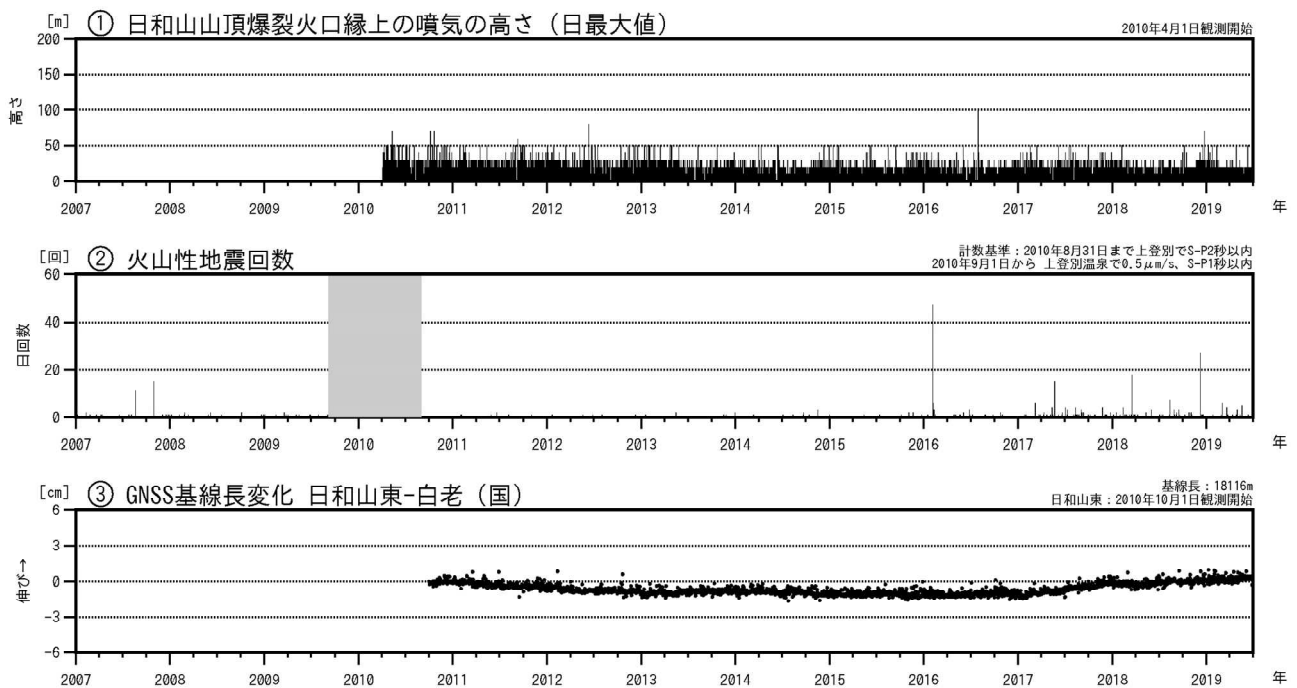
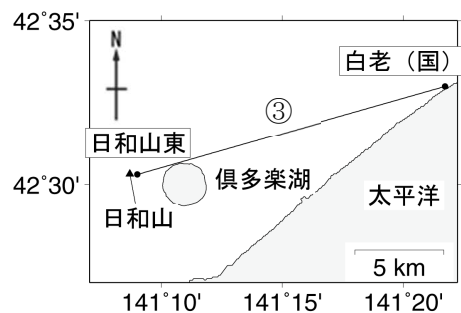


図2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2019年6月）

②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。

- ・ 倶多楽周辺で、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。



GNSS連続観測点配置図
(国)：国土地理院

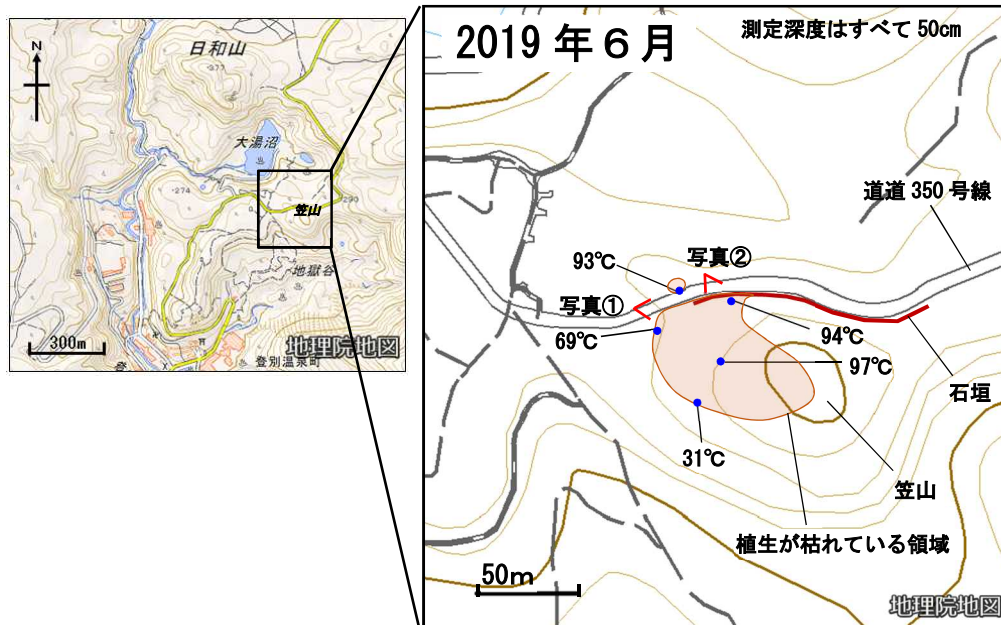


図3 笠山周辺の植生状況と地中温度測定結果

- ・ 笠山の西側斜面では地中温度が上昇しており、植生が枯れている領域（地図の橙領域）が道道350号線を越えた北側まで広がっています。
- ・ 植生が枯れている領域の地中温度（地表面から深さ50cm）は90°Cを超えています。

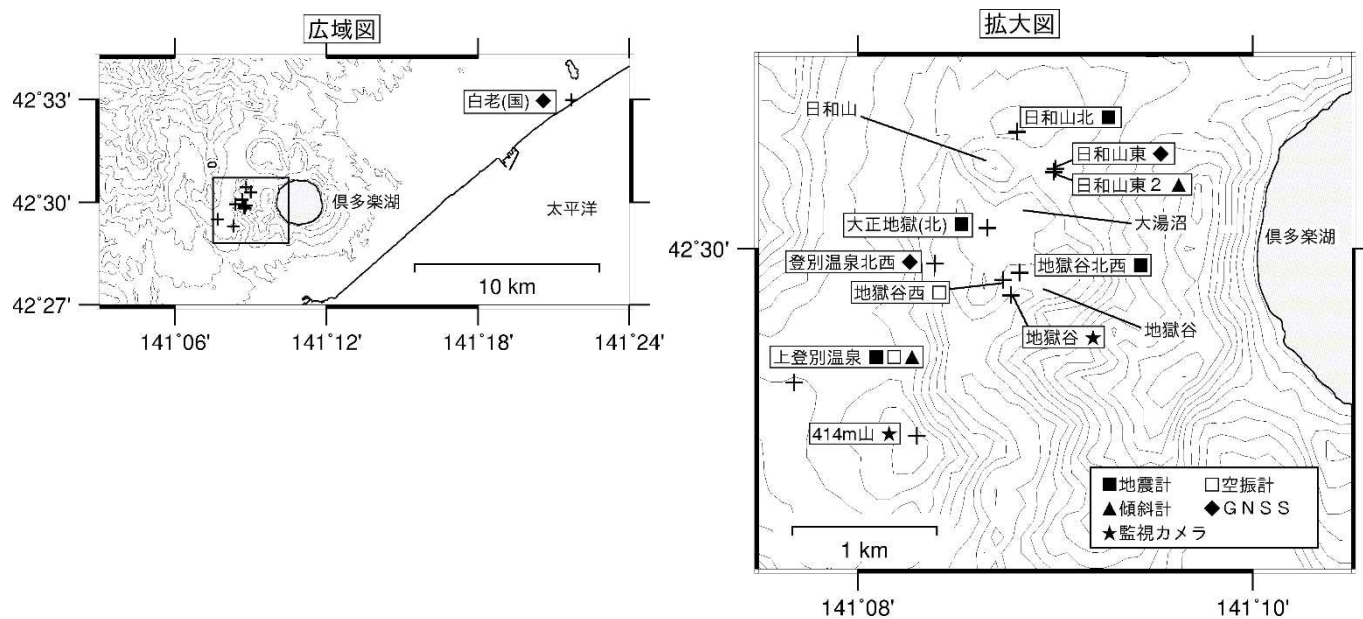


図4 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

十印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学